町長コラム ベア・パル

夏ともし

桜の開花と共に聖火リレーの号砲が鳴り、ほっと胸をなでおろしています。我が町に聖火がやって来るのは6月20日ですが、ふと聖火の輝きが気づかせてくれたものを数えてみました。

まず、男女参画など、各競技団体の内部浄化や社会課題が取りざたされ、いわゆる「体育会系」のモラルが問われることになりました。オリンピック開催がなかったのなら、旧態依然とした体質が温存されていたのではないでしょうか。経済効果も期待されますが、それは前回大会が「1兆円オリンピック」と呼ばれたからです。国家予算が3兆円当時、予算の3分の1を費やし高速道路や新幹線網の整備等のインフラ投資やマンモス団地の造成に取組み、人、労働力、資本、サービスを徹底的に首都に集め「東京一極集中」をほぼ完成させました。戦後復興のかけ声とともに町と人の意識も変化したと思います。

今大会、予算的な事より、町づくり関連で注目したい事があります。それは、前回とは逆の「脱東京一極集中」です。前回、地方会場は馬術の長野県のみであったのに対して今大会は札幌、神奈川、埼玉、千葉、茨城、福島、静岡そして利府と分散されています。人の移動制限もあるでしょうが、多くの人が地方へ足を運ぶ機会が増え、地域が有する文化や特性を体験し意識は広がることでしょう。

そして何よりスポーツの力を3人から教えてもらいました。水泳の池江璃花子選手は白血病を乗り越え五輪チケットを手にし、ゴルフの松山英樹選手は震災の年に挑戦したマスターズを10年越しで制覇。続いて五輪の金メダルを目指したいと語りました。大坂なおみ選手は差別なき世界を訴えました。

梅雨時ですので聖火が雨に影響されないか心配もありますが、オリンピックによって気づかされた事、不正をただすことや都市を形成する不撓不屈(決してあきらめない姿)の精神、何度打ちのめされても立ち上がる勇気など、夏ともしに、火取り虫になったように思うのでした。

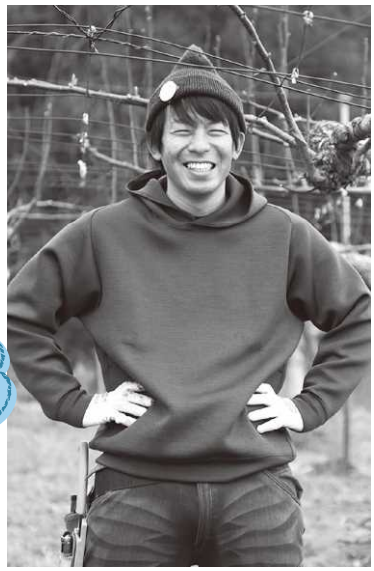
利府町長 熊谷 大

利府町 地域おこし協力隊がゆく!

No.25 利府梨 花粉交配の不思議

梨は異なる品種から花粉を採取し、「梨の実をつけたい花」に別品種の花粉を付けなければ梨の実がつきません。例えば、幸水 × 幸水同士の花粉交配では梨が実りませんが、幸水 × あきづきの花粉交配では梨が実ります。それが梨の「交雑和合成」という特徴です。

受粉が可能な時期は、満開時の「前後1週間程度」と短く、タイミング良く作業を行わなければなりません。手間も労力もかかる作業ではありますが、自分の目には手のかかる子(梨)ほど可愛く映ります。引き続き今シーズンも細かな作業も怠ること無く、丁寧な梨作りを行っていきたいと思います。



花粉交配の様子

花粉採集用の花摘み

地域おこし協力隊 きっかわ かずとし 吉川 一利

吉川 一利
利府梨とポケモン好き。

kuro_ranger

ブログやってます。

地域おこしと梨とオラ。 検索